

発掘された 石狩の遺跡

市内には、登録されている遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）が220件ほどあります。そのうち、大規模な発掘調査が行われた主な遺跡に、①上花畔1遺跡 ②石狩紅葉山49号遺跡 ③志美遺跡群 ④紅葉山33号遺跡 ⑤若生遺跡群などがあります（図1）。

①～⑤に記した遺跡の発掘調査は1970年代～2000年代の開発事業に伴い実施され、その結果、数千年にわたる当時の暮らしの痕跡（竪穴住居の跡、墓坑、生活用具、副葬品など）が数多く発見されました。現地では、すでに遺跡そのものの姿を失っていますが、詳細な調査と記録によって出土品が回収・保存され、遺跡の性格や土地利用の変遷が明らかとなり、地域の長い歴史や文化をひも解く手がかりとなっています。

今は、これらの遺跡の発掘調査が終了してから20～50年ほどの歳月がたち、当時の出土品が「場所をとるやつかいもの」と思われることもしばしば。しかし、日本では毎年約8千件の発掘調査が行われ、新たな出土品の発見によって、当時よく分かったものが比較検討できるようになったり、逆に希少性が再認識さ

れたりすることもあります。また、近年の自然科学分析の向上によって、当時の出土品を対象に新たな調査研究が行われ、解明できていなかったことが再考されるようにもなっています（図2・図3）。

遺跡から発掘された出土品は、世界にたった一つのエビデンス。この土地に生きた人々が残していたモノには、生活の知恵や工夫、他地域との交流、自然との関わり方など、多くのことが秘められ、現代の私たちへメッセージを伝えていきます。これらをさらに未来へ残し、伝えていくことで、今後とも未知の歴史・文化が解き明かされていくことでしょう。

（荒山千恵）



図1 遺跡の位置

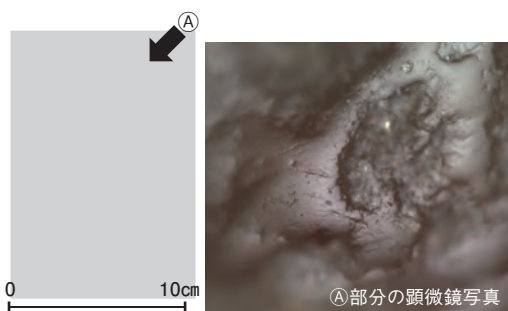


図3

1995～2002年に発掘された石狩紅葉山49号遺跡出土の石器（縄文中期）。金属顕微鏡による使用痕分析から何に使ったかが明らかに（高瀬克範2017「石狩紅葉山49号遺跡出土剥片石器の使用痕分析」『北海道考古学』第53輯）

石狩市学芸員
荒山千恵 Chie Arayama

専門分野は考古学。北海道での遺跡発掘調査をはじめ、出土した木の道具、音の考古学などの研究を行う。



図2

1974～76年に発掘された若生C遺跡の土壇墓出土のガラス玉（続縄文期）。非破壊による化学成分の分析により、本州から運ばれてきた可能性をひも解く手がかりに（石橋孝夫・越田賢一郎ほか2015「石狩市の若生C遺跡出土のガラス玉と土玉の成分分析」『いしかり砂丘の風資料館紀要』第5巻）

テーマ展 発掘された石狩の遺跡

1970年代～2000年代前半に市内で発掘調査された遺跡を中心に、その出土品を展示します。

■21(水)～11/7(月) ※火曜休館

■入館料300円(中学生以下無料)

所 いしかり砂丘の風資料館(弁天町30・4)

関文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館